

大幅改訂「新青本」を発売

改訂コアカリキュラムに対応

医学アカデミー 薬学ゼミナール

医学アカデミー薬学ゼミナールは、薬剤師国家試験対策参考書「青本」を大幅に改訂した「新青本」の販売を開始した。2021年に施行される第106回薬剤師国試から適用となる改訂コアカリキュラムに準拠した新出題基準に対応し、これまでより薬学生が使いやすいと学びやす

いものに仕上げた。木暮喜久子学長は、43年の提供実績を大事にしつつも、「リニューアルではなく、全く新しい青本を一から作り上げた」と強調。低学年次の学修から国試対策まで広く活用方法を提案していきたく考えた。

参考書である青本は、出題基準を網羅していることや一般目標や到達目標、出題頻度の掲載、薬ゼミオンライン教室の無料動画とリンクしているなどの長所はしっかりと残しつつ、3色刷りからフルカラーに

自分の進捗に合わせ演習

た利便性に加え、「青本で基礎を固めた後に質問で理解を確かめ、理解が不足していればまた青本に戻るといった勉強の仕方を身につけられる。暗記ではなく、理解した形で知識定着を図ることができるのではないかと述べ、低学年次の授業の復習や自己学習などの活用も提案していく考えを示している。

フルカラーで内容一新

オリジナル問題も多数収録

薬ゼミが提供している青本は、薬剤師国試を受験する学生の95%以上が使用しており、薬剤師国試対策参考書として圧倒的なシェアを保有している。これまでも10回の改訂を重ねてきたが、16年に厚生労働省が改訂コアカリに準拠した新出題基準を発表したことを受

け、17年4月には新青本発刊に向けたプロジェクトチームを発足。長い準備期間を経て発売にこぎつけた。

また木暮氏は、「実務実習の意義がより鮮明になっていく」とし、病院や薬局での実務実習と関連つけた新青本の利用方法も訴求する。実務以外の8科目と実務とのリンクを強化し、「実務十各科目」の実践問題対策として、各科目の青本には他科目や実践の場で身に着ける知識に関連するコラムを掲載するなど細かな工夫を散りばめた。

トや写真、図表を多く盛り込むことで、学生がイメージしながら勉強できるように内容を一新した。項目ごとに勉強した知識は、問一答の確認問題ですぐにチェックできるようにし、基礎を固めるための学修も行える。

さらに「改訂コアカリキュラム対応問題」を新たに収録し、全問題の解答・解説ページには青本の参照ページや他科目へのリンク参照ページを併せて記載した。国試既出問題とオリジナル問題が収録された形式だったが、新しい青本は参考書である「青本」と国家試験既出問題と薬ゼミオリジナル問題が詰まった「青問」の2分冊セットになっている。

「社会が求める薬剤師になってもいいように、思いを込めて新青本を作り上げた。大学卒業後に薬剤師として現場へ出てからもぜひ継続して活用してもらいたい」と、薬剤師の活躍を長期的に支えていきたい考えた。

現場に出ても使えるものに

薬剤師に求められる10の資質に沿っており、青本も新しく生まれ変わる必要があると考へたと話す。

木暮氏は「実務実習中や実習後の5年生にも使ってもらいたい」と期待する。特に癌や高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症の実務実習で経験すべき代表8疾患を学ぶ機会となる。

臨床内容を把握できる。実務実習で医療現場を経験しながら、青本で必要な知識やスキルを確認し、さらに青問の問題にあたることで、国試対策のみならず、臨床能力や問題解決力など薬剤師としての必要な資質を養ってもらいたい。

木暮氏は、5年生向けに新青本を活用した講習会を開催しているところだが、各会場は満員状態が続いているという。「社会が求める薬剤師になってもいいように、思いを込めて新青本を作り上げた。大学卒業後に薬剤師として現場へ出てからもぜひ継続して活用してもらいたい」と、薬剤師の活躍を長期的に支えていきたい考えた。



新青本として、より使いやすく学びやすくなった

新しい書籍はこれまでのものと比較し大きくその姿を変えている。従来の青本は科目ごとに参考書と国

また木暮氏は、「実務実習の意義がより鮮明になっていく」とし、病院や薬局での実務実習と関連つけた新青本の利用方法も訴求する。実務以外の8科目と実務とのリンクを強化し、「実務十各科目」の実践問題対策として、各科目の青本には他科目や実践の場で身に着ける知識に関連するコラムを掲載するなど細かな工夫を散りばめた。

木暮氏は「実務実習中や実習後の5年生にも使ってもらいたい」と期待する。特に癌や高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症の実務実習で経験すべき代表8疾患を学ぶ機会となる。

臨床内容を把握できる。実務実習で医療現場を経験しながら、青本で必要な知識やスキルを確認し、さらに青問の問題にあたることで、国試対策のみならず、臨床能力や問題解決力など薬剤師としての必要な資質を養ってもらいたい。

木暮氏は、5年生向けに新青本を活用した講習会を開催しているところだが、各会場は満員状態が続いているという。「社会が求める薬剤師になってもいいように、思いを込めて新青本を作り上げた。大学卒業後に薬剤師として現場へ出てからもぜひ継続して活用してもらいたい」と、薬剤師の活躍を長期的に支えていきたい考えた。